

『賜物を与えた神の願い②』

'22/09/11

聖書箇所: エペソ人への手紙 4章 13-16節 (新約 p.377-)

ここ数回…、私たちは「聖霊の賜物」について学んでおります。イエス様を信じて救われたクリスチャンは、誰であっても、聖霊なる神様の『現れ』とも言ふべき…、素晴らしい能力が与えられているのです。

命題: 私たちに聖霊の賜物を与えてくださった神の願いとは？

しかし、神様がそのようにしてくださったのには、“ちゃんとした目的がある”のです。当然のことですが…、神様は私たちに聖霊の賜物を与えることによって、何かを願い…、期待しておられるのです。今日は、先週に引き続いて、私たちに聖霊の賜物を与えてくださった神様の願い…、そのみこころについて、一緒に学んでいきたいと思ひます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるエペソ 4:11-16 をお開けください。

I・指導者のもとに一致する！(11-12節)

先週に学んだことですが、神様は私たちクリスチャンが、特に、その教会にあって一致することを期待しておられます。どのような教会であろうと、その教会が一致するために必要なことは、**イエス・キリストが教会に与えてくださったリーダーシップ…、言い換えれば、指導者のもとに一致していく！**ということです。そういったことを、私たちは先週学んだわけです。

11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。

12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、

ここでは、先週学んだように、神様が教会に与えてくださった4種類のリーダーたちのことが挙げられていました…。聖書のみことばが、はっきりと教えてくれていたことは、教会のリーダーたちは、神様が御立てになられたことでした。イエス様が私たちに、どのような賜物を分け与えるか判断して下さるわけですが…、その同じイエス様がその賜物に合った働きを与え…、それぞれの場所に遣わして下さるのです。

だから、私たち、こうは言えないし、言うべきではありません、「うちの牧師には、他の牧師先生たちと違って、牧師としての必要な賜物がない…。もつとこうであつたら…。あつたら…。」なんて…。神様が、いや、イエス様が、何が最善であるかを判断し、すべてのことを見極めた上で、そういった賜物を与えて下さっているわけですから、私たちは軽々しく、神様に愚痴をこぼしたり、不平不満をこぼしたりすべきではありません。だって、それらは、言い換えれば…、「私たちの信じている神様は、必要なものを与えて下さらない。完全な御業をなすことができない！」と言っているのも同然であるからです。

でも、正直、皆さんもそうでしょうけど、…私自身も弱い器です。多分、皆さんが私に対して思われる以上に、私は自分自身のことを、「もつと、こうであつたら…。こんなことができたら…。例えば、自分が近藤先生のように名説教者であつたら…。岡田先生のように、何でも知っていたら…。いや、せめて、スムーズに話せたら…。」などと考えてしまうことが多い者です。

でも、だからこそ！ 私たちは、常に、みことばがどのように教えてくれているのか、ということに戻っていく必要があるのです！…確かに、ここエペソ 4:1以降では、クリスチャンの一致について教えられておりました。…そうですね？その後、7節以降ではどうだったでしょう？何が教えられておりました？⇒…イエス様が、私たち一人ひとりに、異なった賜物を分け与えてくださったということが教えられておりました！このみこと

ばは、そういった中でも特に、教会のリーダーたち(使徒、預言者、伝道者、牧師)について教えてくれました。

一体、どうしてなのでしょう？⇒それは、教会の一致のために、神がリーダーを備えてくださったからです。そして、神様の願いは、皆さんが教会のリーダーたちを中心にいろいろな奉仕をして下さって、一緒に成長していただくことだからです。そうですね？

実に、そういったことのために、神様は、教会にリーダーたちを与えてくださったのです。それは、聖徒たちを整えるためでありましたが、実は、そういったことをなして下さるのも、イエス様なのです！

ですから、私たちクリスチャンの究極的な責任は、自分が牧師であろうと…、あるいは、聖徒であろうと、私たちの救い主であられ…、私たちのかしらでもあられるキリストに対して…、**牧師ではないですよ！(笑)**、忠実に歩いていくことだけです。私たちクリスチャンは皆、キリストのからだのどこかしら、一部分なのです。だから、私も…、また皆さんも、与えられた賜物を用いて、働いていかなければいけないのです。…だって、私たちが賜物を生かして働かないということは、現代のキリストの体を動かしていない…、キリストの働きを止めてしまっている、ということになってしまうわけですから…。

牧師や長老たち…、教会のリーダーたちは、みこころを求め…、そのために祈り…、みことばを学び…、それらを伝えていかなければなりません。それが、リーダーたちに対して、神が与えられた務めなのです。一方で、聖徒たちは、そのリーダーたちのために祈っていくべきだ、ということをお話しさせていただきました。…言うまでも無く、リーダーたちが与える影響は大きく、また、リーダーたちが受ける誘惑も大きいからです。

II・救われた者たちが成熟したクリスチャンとなる！(13-15節)

そこまでが、先週に学んだ内容であります。次に注目していきたい、**神様の願いは、私たち…、救われた者たち皆が、益々、成熟したクリスチャンとなっていくこと**です。間違いなく、神様は、救われた全てのクリスチャン全員が、主に在って…、霊的に成長していくことを願っておられます。

13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。

14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることがなく、

15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。

●神様の願い⇒私たちの完全！

ここ13節で、パウロは、『**私たちがみな、…完全におとなに**なる』ということを、イエス様が願っておられると教えてくれています。…神様の願いは、私たちがただ単に、一致することや、奉仕の働きをすること“だけ”に留まりません…。もちろん、それはそれで素晴らしいことですが、神様が救われた私や皆さんに期待しておられることは、私たちが、常に成長していくことなのです。だから、ここ15節でも、パウロは、『**むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるため**…』と教えるわけなのです。

毎度毎度お話ししていることですが…、私たちは残念ながら、この地上で生かされている限り、完全な人間になることは叶いません。それに関しては、時々、お話ししておりますので、今回は割愛させていただきます。しかし、私たちの目標は常に、「完全」であるはずなのです！何故なら…、イエス様が完全であられるからです！神様が完全であられるからです！もし、私たちが完全以外の何かを、基準に設けてしま

なら…、私たちはそれ以上成長しなくても良いと考えてしまいます。もし、私たちの評価が他人との比較なら、ある程度で妥協してしまいます。しかし、聖書は常に、私たちに教えてくれています、「私たちは、成長という分野に関しては、決して、途中で満足してしまってはならない！」って…。

● 成熟した クリスマンとは？

パウロは、ここで、完全な大人であるクリスマン…、つまり、成熟したクリスマンとは、どのような者なのかということについて、3つのポイントを挙げて説明してくれています。

①信仰の 一致 がある！

まず、1つ目のポイントは、『信仰の一致』があるということです。私たちが霊的に成長していく時、そこには本当の、信仰の一致が生まれてきます。でも、このことは、私たちが霊的に成長していく過程の中で、数多くある宗教の内の本物の信仰…、つまりは、イエス・キリストを信じる信仰という一致に達していくことではありません。そういったようなことは、言うまでも無く…、全てのクリスマンたちがもう既に通っているはずのことで、エペソ 4:5 でも、全てのクリスマンが一致した信仰を持っていることを教えていることから分かります。

これは、同じキリスト教という教えの中でも、さらに共通した理解…、“深い教理的一致のこと”について教えてくれているのです。…どうして、そんなことが言えるのかと申しますと、14節をご覧くださいと分かります。14節に、その効果と言うか、目的が教えられています。『それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることがなく、』とあるように、私たちが「もはや、子どものような信仰の入門編を終えて、もっと難しい信仰の理解に立って、堅くそこに留まり続けることができるようになること」です。…実は、このエペソ書が書かれた紀元 60年頃にはもう既に、色々な、間違った教えが出てきていたのです。

ねえ、皆さん。このみことばが教えてくれているような、「教えの風に吹きまわされていたり、波にもたせられたり」しているクリスマンって、どんな状態だと思います？…その人は、主が与えてくださる平安の中におられるでしょうか？それとも、確固とした確信が無いが故に、不安定な状態におられるか？どちらだと思います？…明らかに後者じゃありません？…実は、このエペソ書よりも、10年近く前に書かれたガラテヤ 1:6-7にはこう書かれています。『6 私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。7 ほかの福音といつても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。』⇒このように、はるか以前から、間違った教え…、“偽りのキリスト教”とも言うべき教えが横行していたのです！

今日のみことばが教えてくれているのは、そういった間違った教えに惑わされないためにも…、また、不安定な霊的状态から脱却するためにも、私たち1人1人がしっかりと主の前に成長していくべきである、ということです。一体どうして、私たちは間違った教えに流されていってしまうのでしょうか？⇒その原因は、私たちがしっかりと聖書の正しい理解に立たないからです。そして、もう1つの理由は、先週学んだように…、自分たちに与えられた指導者…、リーダーを信頼しない…、従っていこうとしないからです。つい先週も引用したみことばですが、Ⅱ テモテ 4:2-4 のみことばはこう教えます、『2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。』

⇒つまり、神様が教会に与えてくださったはずの教師たちがリーダーではないのです！…このみことばから伝わってくる、間違った聖徒たちのイメージは、「自分たちに神様が与えてくださった教師たちを信頼して、一致して歩いていこう！」というようなものではなく、自分たちが主(あるじ)であるが故に、自分たちの考えや、自分たちの願いこそがメインなのです。…そうして、そのために、自分たちにとって都合の良いことを言ってもらいたいような教えを説いてくれる教師たちを集めてくる…、という話がなされているのです。

ひょっとしたら、皆さんも、そういったような誘惑をお持ちではありません？⇒自分にとって都合の良い聖書の教えを話してくれる方を無条件に信じていくのです。…例えば、もし、皆さんが同性愛者であったとして、「聖書は、同性愛を罪だとして禁じている！」と教える教会と、同性愛は病気だとか、その人の個性だとか言って、何からの形で同性愛を認めてくれるような教会があったとしたら、まず間違いなく、自分のことを認め受け入れてくれるような教会に行きたいというような…、そんな誘惑がありますでしょ？

でも、大事なことは、自分が何を好んでいるかとか…、自分がどうであるかということではありません！神のお言葉である聖書が何と教えているかです。使徒 17 章に出てくる、『ペレヤ』の人たちは、『非常に熱心のみことばを聞いていただけではありませんでした…。パウロたちの語ったメッセージが、『はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた』というわけです(使徒 17:11)。

皆さんは、いかがでしょう？…様々な教えや考えを聞いた時、みことばでもって判断しておられますか？また、判断できます？あるいは、自分の考えに近いとか、共感した…、感動したから、受け入れておられますか？…私たちも、ペレヤの人たちと同じであるべきです。聞いた教えが、気に入ったから信じるのではありません。牧師が語るから、何でも無条件に受け入れれば良いというのでもありません。…増して、自分の行動や選択を後押ししてくれるから信じる…、受け入れるというのは言語道断です。大事なことは、果たして、聖書がそのように教えてくれているかどうか…、本当に、神様がそのように教えておられるかどうか…、でなければならぬのです！…そうでしょ！

実は、そういったことのために、「聖書解釈学」の学びが必要なのです。「解釈学」などと聞くと、何だか難しい学問のように思われるかも知れませんが、でも、私たちは、聖書のみことばに限らず、どんな文章を読んでも、自分なりに文章を解釈しているのです。…でも、私たちは、聖書の書かれた文言を正しく理解するために、ちゃんとした解釈学を学ぶ必要があります。そういった学びも、信仰の成熟のためには欠かせないと私は思います。

信仰が幼い頃は、信仰を持つ前の、かつての自分たちがそうであったように、自分たちの考えに近い教えや自分たちが共感できた教えを信じ受け入れようとします。…しかし、信仰が練られ、成熟していくと、私たちが自分の勝手な願いや感覚などではなく…、しっかりと、聖書のみことばでもって、様々なことを判断していくことができるようになっていきます。だから、間違った教えなどに振り回されにくくなっていくのです。

② キリスト に関する知識の一致がある！

成熟したクリスマンの2つ目のポイントは、御子キリストに関する知識の一致がある、ということです。これも、基本的には、今見てきたことと同じです。特に、初期のキリスト教会の頃は、キリストに関する理解…、つまり、神学的に言うと、「キリスト論」というものが攻撃される傾向にありました…。

どういふことかと申しますと、この当時のある者たちは、「キリストを被造物の中で、最高の存在である」と位置付けました。つまり、イエス・キリストは、厳密には神でないと言うのです！おかしでしょ！…また、別の者たちは、「キリストは神であられたが故に、肉体を持っておられなかった…。あれは霊が目に見える形を取ってくださったに過ぎないのだ…」と考えました。しかし、聖書は、そうは教えません。イエス様は、私たちと全く同じ肉体を持っておられたのです。もし、そうでなかったら、イエス様の…、あの十字架の苦しみは大きな犠牲ではなくなりまして…、イエス様の死も復活も…、単なる幻想や幻になってしまいます。

この当時の…、そのような間違った聖書理解から、例えば、禁欲主義や神秘主義(=超自然的な体験というものを重視する教え)などの教えが入ってきて…、多くの教会が混乱しました。そういったことは、コロサイ書やヨハネの手紙、また、ヨハネの黙示録などを見ると、明らかに、そういった影響などを見ることができます。多くのクリスチャンが、そういった間違った教えに惑わされてしまっていたのです。

しかし、先程言いましたように、私たちがしっかりと聖書信仰に立つなら、そのような影響を受けることは格段に少なくなります。…また、そういったことのためにも、牧師たちは、熱心にみことばを正しく学んでいかないといけないのです！…だって、もし、牧師や教師たち(長老？リーダー？)が熱心にみことばを学ぶことなく…、いい加減なことを理解し…、また、教えていたら…、教会全体が間違った方向に進んで行ってしまいかねないじゃないですか！…そうでしょ！

牧師たち…、教師がしっかりとみことばを学んでいくことによっても、私たち教会全体が一致を強めていくことができ、また、教会が成長していき、そして、教会全体が益を受けていくことができるのです。ですから、教会は、牧師たちがしっかりとみことばを学ぶように祈り…、また、励ましていくことが必要です。

③愛と真理に基づいた行動を取っていく！

成熟したクリスチャンの3つ目のポイントは、愛と真理に基づいた“行動”を取っていくということです。…当然のことですが、成熟したクリスチャンとは、どのような理解や知識を持っているかということに留まりません…、むしろ、そのような知識以上に重要なのは、生き方の方(ほう)なのです。

ここ15節のみことばをご覧ください、『むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。』とあります。ここで、『真理を語り…』と訳されていますが、この言葉(ἀληθεύω)は、「真理を語る」という意味だけでなく、「真理を行なう、真実にふるまう」とも訳せるような言葉で、その者の正しい行動について教えてくれているのです。

そういったようなことは、以前にも、[マタイ 7:21-23](#) から学びました…。そこで、イエス様は、こう教えてくださいました。『21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう、『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行ったではありませんか。』23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』』

⇒このみことばだけでなく、ヤコブ書 2 章も同じことを教えてくれていますけれども、聖書のみことばは、間違いなく、「本物の信仰には、必ず、その信じた内容に沿った行ないが伴う！」ということを教えてくれています。それゆえ、私たちは、「自分の行ないが、自分自身の信仰を明らかにしている…」ということを見ておくべきです。

しかし、今日のみことばには、そういった真実を行なうだけでなく、それを補う言葉として、『愛をもって…』とあります。…つまり、私たちが真理を行なっていく時には、神の愛を模範とした、「アガペーの愛」をもって、なしていくべきというわけですね。みことばには、すべてのことを、愛をもって、なしていくべきであるということが、いろんなところで教えられています。

例えば、[1コリント 13:1-3](#)、『1 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識に通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。』と教えられています。当然、今、引用した聖書のみことばには、すべて、「アガペーの愛」という言葉(ἀγάπη)が使われています。

時々、私たちクリスチャンは愛ばかりを強調し過ぎて…、真実をおろそかにしてしまうことが有り得ます。例えば、その者を愛するが故に、みことばを曲げて解釈したり…、みことばにある教えを破ったりしてしまうことだって有り得ます…。皆さんも、そういった経験をお持ちではないでしょうか？また、こういったことも、その具定例かも知れません。例えば、皆さんは、私たちの周りに、「エキュメニカル運動」という動きがあることをご存知でしょうか？いろいろなレベルや分野があるのですが、簡単に言うと、「世界のキリスト教会を一致させようとする働き」であると言って良いと思います。正直言って…、大きく教理が違う教会と交わりすることは、真実をおろそかにしていると思われれます。…例えば、皆さん、私たちは、キリスト教の教義を大きく逸脱したような旧・統一教会と一緒に活動できますか？あるいは、全然、聖書の教えではない教えを採用しているカトリック教会と、共に聖書の学びをしたりできないでしょ？…でも、そういったことをやろうとするのが「エキュメニカル運動」なのです。

実は、私が SNS で近頃拝見しているニュースで、ある牧師先生が、「この教会は、これから、フリーチャーチと名乗ることとします。」というような宣言をされました。その先生の信条は、「この教会は、どのクリスチャンも、どの教会も、さばくことをしません。私はイエス様を信じますという告白があれば、それだけでクリスチャンと認め、この教会員になることができます！」というようなものです。…申し訳ありませんが、私に言わせれば、そういったような態度、また、信条は、教会のリーダーとして与えられた教師としての責任を放棄してしまっていると思います。だって、そのような教会は、エホバの証人だって、モルモン教だって、統一教会だって、あるいは、カトリックの信者だって、そのままでもウエルカム、何の問題もありませんよ！というような態度であって、教会員を、様々な教えの風から守っていくことができないからです。…そうじゃありません？

また、それと全く逆の場合も有り得ます。…真実ばかりを強調し過ぎて、愛の方をおろそかにしてしまうのです。例えば、みことばに基づいた判断…、決定や行動がなされているのですが、その心の中にある動機が間違っているのです！愛が無いのです！これも、明らかに問題ですね…。先程の、エキュメニカル運動に対して、分離主義という立場があります。他の教会と距離を保っていくという、考え方です。しかし…、もし私たちが、自分たちの教会だけが正しいとして…、他の教会やクリスチャンたちを見下したり…、一方的に交わりを絶ったり…、あまりにも礼儀に反することをするのなら…、そこには、愛が足りない批判されても、文句は言えないのではないのでしょうか？

今日のみことばにもあるように、私たちが益々、信仰の一致を保ち、みことばに立っていくことによって…、私たちの様々な行動が、さらに神の愛と真実に基づいたものとなっていくのなら…、私たちは、段々と、私たちのかしらであられるイエス・キリストに似た者となっていきます…。

皆さんの信仰に関する理解や思いは、年々、深まっていくのでしょうか？…また、皆さんのキリストに関する知識はいかがでしょうか？…そしてまた、皆さんの行動はいかがでしょうか？愛と真理といったものが益々、あらゆる分野…、あらゆる条件において、また、生き方において、実現できていくのでしょうか？神様は、あなたにそういったことを願っておられるのです…。

III・教会全体が建て上げられていく！(16節)

最後、私たちにに対して神様が持っておられる願いとは、私たちの教会全体が建て上げられていくことです。どうぞ、今日のみことばの16節をご覧ください。

16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働かす力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。

ここ 16 節には、まず、『**キリストにあつて…**』とあります。先週のメッセージで、牧師はキリストが御立てになつた器であるという主旨のことをお話ししましたが、それは何も、牧師だけに限ったことではありません…。ここにおられる救われた皆さんも、キリストにあつて救われ…。キリストによって、聖霊の賜物を分け与えられ、キリストによって、この教会に集められた、キリストのからだの一部分なのです！…そうして、キリストにあつて、私たちが成長させられていくのです。ですから、この件に関しても、私たちは、こうは言えません、「神様は、私なんかを成長させることはできない」って…。いいえ、間違いなく、イエス様は、あなたのことを霊的に成長させることがおできになります。…成長させてくださるのです！

だって、ここには何とあります？⇒『**からだ全体は…**』とありますでしょ！一部分じゃないのです！どなたであっても、その人が救われていて、神様の前に正しいことを実践していられるなら、間違いなく、その人は成長させられていきます。誰でも、成長させられるのです！

でも、皆さん…。しばらく前に、**1 コリント 3 章**から、『**キリストにある幼子**』と言われる者たちのことについてお話しさせていただきました。こういったことを聞かされると、何だか、救われてはいても、あまり成長しなくても良い？救われてはいても、成長しないことが有り得るように受け取られるかも知れません。しかし、聖書のみことばは、そう教えません。パウロは、本当なら成長しているはずなのに、実際には、ほとんど成長していないコリントのクリスチャンたちを厳しく非難していましたでしょ？…それは、彼らさえ願えば、間違いなく成長させられたのに、“彼らが”そうしなかったからです！つまり…。責任は、成長させてくださらなかった神様にあるのではなく、この場合、成長できなかったクリスチャンたちの側にあるのです！

そのために必要なことが、実は、ここ 16 節に書かれてあります。まずは、『**一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により…**』ということ。…つまり、救われた皆さんが皆、働いてくださることが肝心なのです。皆さんがそういったことをなして下さるかどうかによって、その人だけじゃない…。教会全体が良い影響を受けていくのです。教会が画期的な策を考えつくから、教会が成長するわけではありません。教会が素晴らしいプログラムを行なうから、教会が成長するのでもありません。ここにおられる皆さんが働いてくださることによって、教会全体が成長させられるのです。ここに、『**その力量にふさわしく…**』とあるように、他の方と比べる必要は全くありません。…これは、私自身もしっかりと覚えたいいけないことですが…。忙しい方は忙しいなりに、できることがあるはず。年配の方にだって、何かしら、できることはあります。若い人や時間のある方と同じような働きをしなくても良いのです。…私の場合、近藤先生や岡田先生たちと比べなくて良いのです！

そして、もう一つ必要なことは、『**備えられたあらゆる結び目によって…**』ということです。ここで結び目と訳されてあるギリシヤ語の言葉は(ἀφίη)は、「つなぎ、韌帯、ひも…」などといった意味があります。基本的には、何かと何かを繋ぐ働きをするものです。つまりは、教会の体である皆さんは、キリストの体であるが故に、何かの機能(=働き)があるのですが、それと同時に、私たちキリストの体である一部分と一部分を繋げるような働きもあるのです。…確かに、そういったことも、私たちは実際面においても分かります。…というのは、教会が何かをしようとしたり…。あるいは、何かを伝えたりしても、そこにそういったことを伝えるような働きをして下さる方が何人もいらっしゃるから。所謂、中継のような働き…。関節のような存在です。

あるいは、今、ここにおられる皆さんも、全員が全員と同じように親しいわけではありませんでしょ？いろいろな人を介して、全体として…。繋がっているわけですね？…そういったことを、ここでは教えているのだらうと思われ。…

<励ましの言葉>

このように、体にとって、すべての部分が何かしらの働きをし…。また、すべての部分が必要なように…。教会員である皆さんの中での交わりや繋がり…。それを絆と言って差し支えないと思いますが、そういったものが益々、キリストの体である。教会の一致や結束といったものをより強く強固なものとしていくのです。

先程も見つたように、そこに欠かせないものは、**アガペーの愛**です。愛という動機が、それを可能にするから。愛以外の動機で、神様が願っておられるような教会の一致や結束を保つことはできません…。そういったことは恐らく、聖書を見ないでも、私たち、何となく分かりますよね？

どうぞ、最後に、**1 ペテロ 4:8-11** をご覧ください。『**8 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。9 つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。10 それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。11 語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。アーメン。』**

良いですか、皆さん。教会を建て上げるのは、皆さんです！牧師ではありません！皆さんなしに教会は…。皆さんの働きのなしに教会の結束は完成しません。だから、教会には皆さんが必要だし…。それだけに皆さんには責任があるのです！もし、皆さんが神様の栄光を現わすために、自分が造られ…。また、そのために自分が救われたことを知っているのなら、あなたには選択の余地は無いはず！…どうか、今日から、自分ができる働きを何かしら、していきましょう。あなたの周りに、困っている人がいれば助けてあげてください。弱っているような人がいれば、まず、声をかけてあげてください。…皆さんが、自分のことではなく、周りに気を配ってください、様々な必要に応じてくださることによって、益々、教会全体が強くなり、この教会全体が霊的に成長させられていくのです。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。